

救急搬送受入年間9,000台以上

断らない医療
地域医療を支える原点であり
私たちの使命

HOSPITAL PHILOSOPHY

病院理念

全職員に信頼される医療の实践と、
地域住民に必要とされる病院

BASIC POLICY

基本方針

- 救急、急性期医療を中心に地域の中核病院として適切な医療を提供します。
- 地域、患者さまのニーズに応えるため、地域医療機関と連携を強化し、地域医療の発展に貢献します。
- 患者さまにとっても、職員にとっても、満足度の高い病院を目指します。

DIRECTOR

東戸塚記念病院 院長 山崎 謙

地域の中核である急性期病院としての設備・機能を強化し、さらに高いレベルの医療を提供していきます

東戸塚記念病院は昭和63年に開院し、地域中核病院として歩んで参りました。何かの縁かもしれませんが、開院は私が大学を卒業した年と同じです。平成8年6月にこちらに赴任した当時に比べ、本当に病院のシステムは変わりました。以前は長期入院が可能で、家族都合によるおじいちゃん・おばあちゃんをお預かりする施設的な役割がありました。しかし、現在は急性期病院として患者さまに早期治療を施し、安定すればすぐに退院にむけて、患者さま・ご家族と相談し適切な施設や在宅に帰る準備を行っております。変化してきた要因は、社会保障費が大きく膨れ上がったことによる、医療費削減を行うための国家施策によるものと認識しております。日本の人口は、2050年前後に1億人を割ると言われております。また65歳以上の人口は38%、約4,000万人に達するという異次元の超高齢社会となります。この状況に対応できるよう本院としても、少しずつ変化し皆さまの健康を守っていきたくと考えております。さて、院長に就任した平成26年6月から様々な改善を実施してきました。本院は地域の中核病院として急性期の役割を果たし、患者さまの医療の安全を確保しなければなりません。そのために前述した内容も踏まえ、急性期としての機能を最大限発揮すべく、改修工事を毎年行っております。最近では増床を行い、304床の病院として



より多くの患者様の受け入れを行ってまいります。中でも新設した循環器病棟ではカテーテル手術に力を入れ、HCU病棟と連携を図り、より重症度の高い患者さまの受け入れが可能になりました。さらに20床の機能転換を行い、地域包括ケア病棟を新設したことで、急性期から回復期の幅広い患者さまの受け入れができるようになりました。もちろん今後も地域に根差した医療を行っていくことには変わりはありません。基本理念に掲げておりますが、本院で働く職員が全職員に信頼される医療を提供できれば、患者さまに対しても信頼できる医療が提供できると思っております。

寧静致遠(ねいせいちえん)という言葉があります。これは諸葛亮孔明が、「五丈原(ごじょうげん)の戦い」の時、病で亡くなる間際に、幼い息子を戒めるために書いた遺言書である「誡子書(かいししよ)」の一節のなかにある言葉です。具体的には、はるか遠くにある目的地も、誠実で地道な努力の積み重ねにより到達できるという教えであります。昭和63年より最初の一步がはじまり、本院がたくさんの職員や患者さま、ご家族の願いと共に少しずつ着実に努力を重ねて発展し成長してきました。今後もエクセレントホスピタルになるために日々努力していきたいと思っております。

HOSPITAL OVERVIEW

病院概要

名称	医療法人財団 明理会 東戸塚記念病院	施設認定・指定	厚生労働省指定臨床研修病院 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育研修施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本形成外科学科教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設 日本リウマチ学会教育施設 日本医療機能評価機構認定病院
理事長	中村 哲也		
院長	山崎 謙		
開設	昭和63年10月		
病床数	304床		
診療科目	内科/消化器内科/呼吸器・アレルギー内科/神経内科/糖尿病内科/内視鏡内科/人工透析内科/腎臓内科/外科/消化器外科/肛門外科/内視鏡外科/整形外科/脳神経外科/皮膚科/形成外科/循環器内科/泌尿器科/麻酔科/救急科/放射線科/リハビリテーション科		
指定	保険医療機関 二次救急医療機関 救急告示医療機関 労災保険指定医療機関		



01 整形外科 ORTHOPEDICS

整形外科は外傷・人工関節・脊椎外科の三大柱による広範囲な治療を提供しています。

当科は24時間365日、患者さまの受け入れが可能です。主に外傷に力を入れており、高齢者に多い大腿骨近位部骨折はここ数年全国第1位の症例数の手術を行っております。入院後は速やかに全身状態の評価を行い、できる限り早期の手術を心がけ、ADLの低下を最小限に抑える事が目標です。同様に高齢者に多い脊椎圧迫骨折に対しても経皮的椎体形成術（BKP）を積極的に施行しております。全身麻酔が必要であるものの低侵襲であり、除痛効果は目を見張るものがあります。脊椎手術

についてはナビゲーションシステムを導入し、より高度な手術を低侵襲で安全に施行できるようになりました。脊椎内視鏡手術は腰椎のみでなく頸椎疾患にも行っております。当院は日本リウマチ学会教育施設であり、リウマチ疾患に対して生物製剤を含む多角的な治療が可能です。地域の方々や遠方の大学病院等に行かなくとも、当院で治療を完結できる事を目標に今後もさらに研鑽を重ねて参ります。



人工関節センター Artificial joint center

年間100件を超える手術を行っており、股関節、膝関節を中心に痛みを取り除き、楽しく有意義な人生を送ることが目標です。当センターでは早期社会復帰を可能にするMIS法（最小侵襲手術）を取り入れております。また、膝関節では単顆置換術（UKA）という悪い関節部分だけを置換する、さらに侵襲の少ない手術を行っています。肩関節に対してはリバース型人工肩関節置換術（リバースショルダー）を行い、除痛だけでなく

肩関節機能を向上させる手術も行っております。入院期間短縮が第一義ではなく、個々の病態、患者様の状況や家庭環境に応じたリハビリプログラムを提供できることが特徴です。

02 内科 INTERNAL MEDICINE

軽症から重症の疾患まで幅広く対応しています。

当科は、消化器、消化器内視鏡、呼吸器、腎、透析、神経内科、リウマチなどの専門医が在籍しており、風邪のような比較的軽症の疾患から血液浄化療法や人工呼吸器管理を必要とするような重症の疾患まで、地域の救急病院として幅広く内科疾患全域に対応しております。さらに、消化器分野では、上部消化管（経口、経鼻）、下部消化管、胆・膵の内視鏡検査、消化管出血に対する止血、ポリープ・腫瘍切除、消化管閉塞に対するステント留置、閉塞性黄疸に対する減黄、総胆管結石の碎石などの内視鏡治療、エコー下での肝生検、肝膿瘍や胆道感染に対するドレナージ、呼吸器分野では、気管支鏡検査、また、透析導入に際してのシャント造設などの専門的な手技を要する検査、治療も行っております。高齢の方の場合、種々の合併症を抱えていることが多く、各自、自身の専門だけにとらわれることなく対応するよう努めております。



脳血管内治療専門医による
脳梗塞や外傷など様々な脳疾患に対応しています。

03 脳神経外科 NEUROSURGERY

脳梗塞や脳出血、くも膜下出血、外傷による頭蓋内出血など緊急性の高い疾患から、脳腫瘍、顔面けいれん、てんかん、認知症まで幅広い診療を行っております。特に、脳卒中についてはできるだけ早い治療が必要なため、可能な限り、入院治療が必要な患者さまを受け入れ、早期治療へと繋げていくことをモットーとしております。脳卒中後の障害に関しても、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など経験豊富なスタッフによる総合的なリハビリテーションを提供し、リハビリ施設への転院まで責任を持ってサポートいたします。また、脳梗塞の急性期治療である血栓溶解療法、血栓回収療法でも良好な実績を収めております。



MEDICAL DEPARTMENT

04 外科 SURGERY

最新の医療技術も取り入れながら、積極的に腹腔鏡手術を実施しています。



当科は病床数40床を有し、消化器良悪性疾患の手術を精力的に行っております。2019年4月より外科スタッフは一新し、今まで築き上げられた外科の伝統と歴史を踏襲しつつ、最善の医療を目指して常に最新の医療を取り入れ診療に臨んでおります。特に、腹腔鏡手術は積極的に取り入れていて、胃癌・大腸癌手術では良好な成績を取っております。鼠径ヘルニア、胆石症といった良性疾患に対する腹腔鏡手術

も数多く行っており、すべての消化器外科疾患、一般外科疾患をカバー出来る体制を整えております。また、月曜日から土曜日は常勤医が診察にあたっていて、常に外科症例が受け入れ可能な体制となっております。当科は、「諦めない外科」をモットーに、地域の皆さまに安心且つ質の高い医療を提供していきたいと考えております。

05 救急科 FIRST AID

救急車受入件数、年間約9,000台を超え、地域の二次救急指定病院として貢献しています。

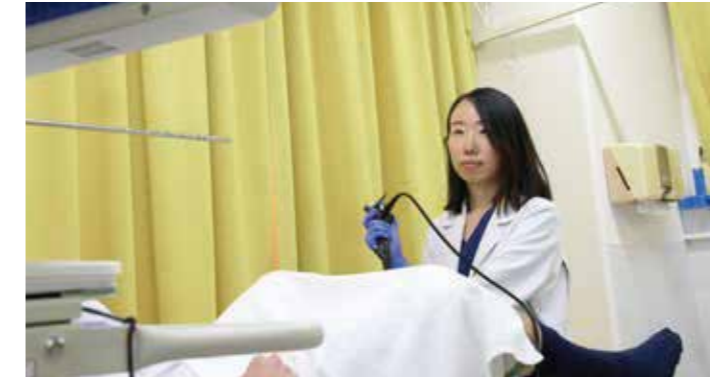


当科は可能な限り多くの救急車を受け入れ、地域への救急医療に貢献できるよう、努力を続け、年々救急車の受け入れ台数が増えている状態です。当科では、まず初めに診療を行った救急科医師が緊急性を判断し、必要な治療があればそれを行い、更なる専門的な治療が必要と判断されれば、その治療の専門医に紹介し、より高度な治療を行っております。また、当院で対応が困難な治療が必要な場合には、そ

の治療が可能な他院への搬送も行っておりますし、逆に他院で対応困難な患者さまの受け入れも行っております。このように他病院との連携を深めながら、地域の患者さま全てに、迅速に必要な十分な治療が行えるような体制を整えております。また、救急隊とも定期的にフォーラムを開催し、症例検討を行うことで救急隊と救急医との連携を深め、速やかな救急搬送ができるよう心がけております。

06 循環器内科 CIRCULATORY ORGAN

心不全、狭心症、心筋梗塞などの入院患者様が多く、緊急手術に対応し、心臓カテーテル治療、下肢閉塞性動脈硬化症のカテーテル治療も多く行っております。また徐脈性不整脈に対してはペースメーカー移植術を実施しています。外来では上記疾患に加え、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病の検査を内科と連携を図ることで、心臓病予防や早期発見に繋がっています。



08 形成外科 PLASTIC SURGERY

一般的な皮膚疾患から、血管腫、皮膚癌まで、皮膚に関する疾患すべての診療にあっております。特に、皮膚癌と皮膚腫瘍については年間500件以上の手術を行っており、皮膚悪性腫瘍に対する日帰り手術、傷あとの形成術、皮膚軟部組織欠損に対する再建術など数多くの実績があります。当院の皮膚科専門医と連携したきめ細かな診療のほか、日本医科大学からの医師派遣によるケロイドの専門的な治療も行っております。なお、レーザーを使った美容診療はしておらず、全て保険診療となります。



10 臨床研修センター CLINICAL TRAINING CENTER

当院は地域に密着した中規模の急性期病院として、平成16年度より臨床研修を行っております。臨床研修医にとって初期研修の2年間は、とても大切な時期となります。専門分野を修練する大学病院や専門病院とは異なり、各診療科同士の連携が強く、内容の濃い研修体制を整える当院は、現場医療の実践を学ぶのに適した施設といえます。学術活動としては多数の臨床研修病院と年2回の合同臨床研修発表会を行ない、多方面から研修医の成長をサポートしております。



07 泌尿器科 UROLOGY

男性の前立腺肥大症を代表とする排尿障害、男女問わず過活動膀胱の治療、性行為感染症、尿路感染症、不妊、バルン管理・定期的交換依頼のご相談にも対応しております。また、前立腺癌検診の2次検診として紹介も多く、前立腺針生検は1泊2日の短期入院が可能です。手術では経尿道的手術や陰嚢内手術を行っております。膀胱癌・腎癌・前立腺癌に対しての入院化学療法を行うとともに前立腺癌においては外来化学療法も積極的に実施しております。



09 APS療法・健康診断 Autologous Protein Solution and Medical checkup

APS療法とは変形性関節症のつらい関節の痛みを改善することを目的に作られた治療法です。関節内で炎症を起こすタンパク質の動きを抑えるため、炎症を抑制するタンパク質を中和剤として注入します。自身の血液成分を用いた治療のため、免疫反応が起きにくいという点も大きなメリット。APS療法は、関節の変形自体は治すことはできませんが、手術を行うことなく、関節痛の軽減が期待できます。また、当院では健康診断外来にて各種健診を実施しております。



OPERATING ROOM & ANGIO ROOM

ANESTHESIOLOGY/OPERATING ROOM/O-arm IMAGE NAVIGATION/ANGIO



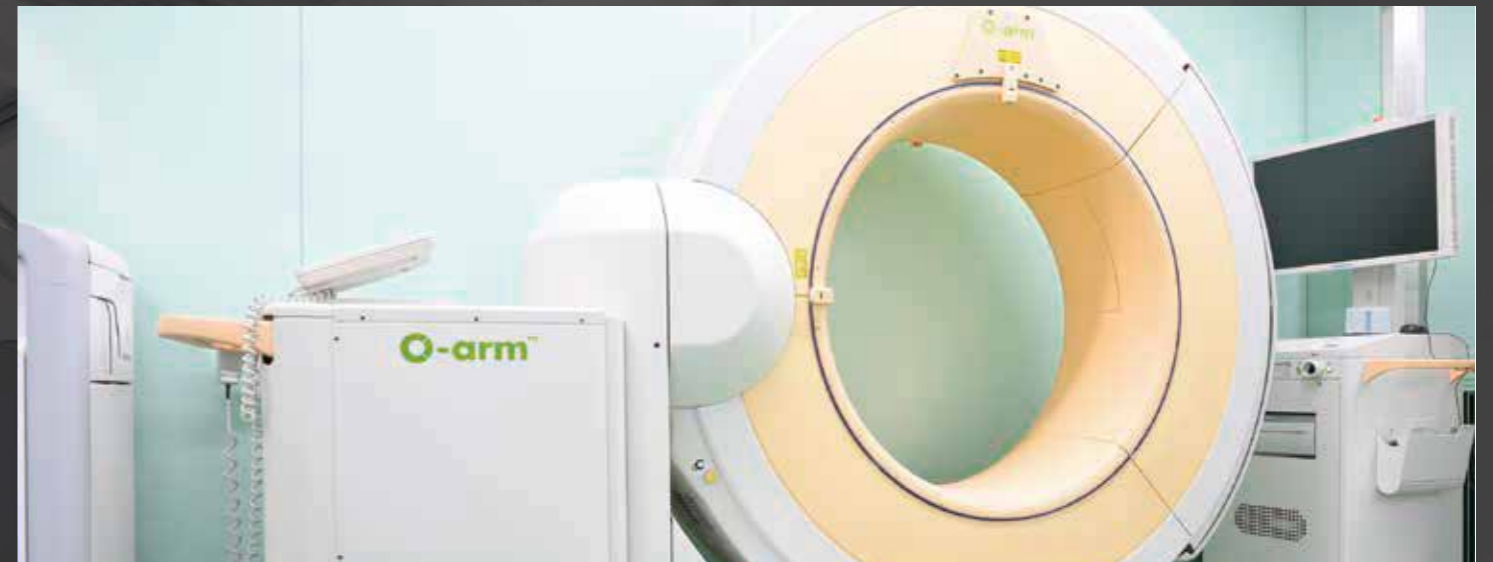
11 麻酔科 ANESTHESIOLOGY

当科は常勤医と日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科のバックアップのもと、年間2,000件以上の手術麻酔を行っております。術前診察の実施、硬膜外麻酔（背中に細いチューブを入れる）やiv-PCA（点滴から痛み止めを必要に応じて注入する）、持続型末梢神経ブロック（超音波で見ながら行う）を駆使した術後の疼痛管理にも積極的に取り組み、安全で痛みの少ない麻酔を心掛けております。



12 手術室 OPERATING ROOM

当院は4部屋の手術室があり、年間2,500件以上の手術を行っております。整形外科をはじめ、消化器外科、泌尿器科、形成外科、脳神経外科の手術にも対応し、患者さまに安全な手術を提供出来る体制の構築はもちろん、緊急の手術にも対応できます。



13 O-arm イメージングシステム O-arm Imaging System

O-armイメージングシステムは全国でも所有している施設が少なく、IMSグループでは唯一当院だけが導入している装置です。手術中にO-armにてCT撮影を行い、取得した画像データをナビゲーションシステムに転送し、3D画像（3次元画像）を構築します。ナビゲーションに表示させた高精細な3D画像をリアルタイムに操作しながら手術を実施します。脊椎や骨盤など高難度の手術に使用され、切開が小さく低侵襲で、より安全に確実な手術を短時間で実施可能となりました。また、患者様や術者、スタッフの被ばく線量が低減できる最先端の装置となっています。



14 血管造影装置 ANGIO

血管造影装置とは、血管の走行や形状、分布をみるための装置です。手首や肘、太ももの付け根の動脈からカテーテルを挿入し、X線透視画像を見ながら血管に造影剤を注入して撮影します。血管のこぶ（動脈瘤）や狭窄、閉塞、走行異常、腫瘍などを観察することができます。この装置は、高精細な診断画像を描出でき、更に最新の被ばく線量低減ソフトを搭載していることより線量を半分以下に抑えることができます。

